

大会終了報告

日本マインドフルネス学会第12回大会は、2026年3月7日・8日の2日間にわたり、名古屋にて開催され、盛会のうちに無事終了いたしました。本大会は「豊かな人生」をテーマとして、多くの参加者を迎え、マインドフルネスの実践および研究に関する活発な議論と交流の場となりました。

本大会では、国内の第一線でご活躍の研究者・実践家による研修会、シンポジウム、ポスター発表に加え、オックスフォード大学のウィレム・カイケン教授をお招きし、研修会および特別講演を実施いたしました。とりわけカイケン教授による研修会では、参加者との対話を重視した実践的な学びの機会が提供され、また特別講演では、「人生のためのマインドフルネス」とウェルビーイングの関係について、最新の知見が共有されました。

本大会の開催にあたり、運営面において至らぬ点もあったかと存じますが、参加者の皆様のご理解とご協力により、円滑に大会を進行することができました。ここに、参加者の皆様をはじめ、ご登壇いただいた先生方、関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

最後に、本大会の企画・運営に尽力いただいた実行委員およびスタッフ一同を代表して、心より御礼申し上げますとともに、本大会が今後のマインドフルネスの実践・研究のさらなる発展に寄与することを願っております。



(カイケン教授のご同意のもと掲載)

第12回大会長 家接哲次
(名古屋経済大学人間生活科学部／マインドフルネスセンター)